

1. 診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項 目	入力箇所	備 考
① 診療科名	腫瘍内科	
② 診療科の特徴	臓器横断的にがん診療に取り組む腫瘍内科です。一般内科を基盤とする腫瘍内科・がん薬物療法の専門科としての役割に加えて緩和ケアにも取り組んでいます。	
③ 診療科のモットー	あらゆる種類・病態のがん診療に取り組む姿勢をもつこと。その時代における最良のがん診療を提供すること。	
④ 診療内容・実績 (2020－2024 年)	年間新患数 250 例、年間外来化学療法件数 3300 件程度。 臓器別では消化器・乳腺・泌尿器・婦人科・頭頸部・呼吸器・その他（38 / 28 / 8 / 7 / 4 / 4 / 11%）の割合。 各日に専門外来あり。入院患者数は 15-20 名程度。	外来の状況や、どういった患者さんか来られるか等
⑤ 診療体制 (2026 年 4 月時点)	がん薬物療法専門医 6 名（指導医 3 名含む）、内科専門医 7 名（総合内科専門医・認定医含む）、呼吸器専門医 1 名、血液専門医 1 名	現在の指導医数や、専門医数等
⑥ 診療科カンファレンス	腫瘍内科外来（全例）・病棟カンファレンス。他、消化器外科・内科(毎週)、乳腺外科(毎週)、泌尿器科(毎週)、婦人科(毎週)、耳鼻咽喉科(毎週)、緩和ケア科(毎週)、カンサーボード(月 2 回、随時)を定期開催	
⑦ 経験できる疾患	成人固形がん全般、血液腫瘍は数例程度	
⑧ 経験できる技術・技能	一般内科（感染症、栄養、腹腔穿刺、胸腔穿刺など）、腫瘍内科、緩和ケア。中心静脈ポート留置など	
⑨ 学会について	日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、米国臨床腫瘍学会、欧州臨床腫瘍学会など	
⑩ その他	- 診療はチーム制で行っています。 - 平日夜間・休日完全当番制（休日の当番は月 2 回程度） - 当直明けは完全 OFF です。休日に勤務した場合は平日に代休を取得します。 - 勤務時間など相談に応じて柔軟に対応いたします。	

2. 専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合

項 目	入力箇所	備 考
① 取得可能な専門医	がん薬物療法専門医	
② その他	研修プランによっては呼吸器、血液など関連する内科領域の専門医取得をサポートします。	

4. 指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

腫瘍内科以外を目指す内科専攻医の方

当科では一般内科的診療（医療関連感染症・血流感染症、栄養療法、診断学、胸水・腹水の管理など）、がん診療の基本、各診療科との連携・チーム医療、医療面接（Bad news の伝え方）、緩和ケア（疼痛緩和や心理・社会的なケア・調整の技術）はどの領域に進むにしても有用です。個々人のニーズによって有意義な研修となるよう調整します。当科は、将来の志望領域や志向に関わらずローテーターの方を歓迎いたします。

腫瘍内科医を目指す方

腫瘍内科が設置されていない施設が多く、腫瘍内科があっても各病院の役割はそれぞれ異なるのが現状です。本来の腫瘍内科医にはあらゆる臓器のがん、重複がん、原発不明がんの診療を幅広くカバーすることが求められます。当院の腫瘍内科は3大がんである消化器がん、肺がん、乳がんに加えて婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がんを始め、原発不明がん、胚細胞腫瘍、肉腫、悪性黒色腫といった希少がんまでカバーしている国内でも数少ない診療チームです。徐々に担当患者数も増加し、最近では当院の外来化学療法件数の50%弱を当科が担当しています。

内科専攻医コースの間も腫瘍内科をローテーションすることが可能で、早期から専門領域の研修を行うことができます。その場合は入院中に担当した方を中心に可能な範囲で外来フォローできるよう調整しています。

内科専攻医プログラムが一段落し、FIX後は各科ローテーションをしなくてもあらゆる固形がんを経験でき、がん薬物療法専門医の取得条件を満たすことが可能です。細切れではなく、長期間ひとりの患者さんの診断から治療、経過を担当することが腫瘍内科医として独り立ちを目指す上での近道だと思います。

2020年度より愛知県がんセンター、2024年度より国立がん研究センター中央病院(最長6ヶ月)が連携施設に加わりました。当院の内科研修・腫瘍内科研修に加えてがん専門病院での研修が経験可能です。幅広い視点、視野を身につけるとともに、将来のキャリアプラン、方向性を決めていくうえでも有用な機会と認識しています。

実際に、当院腫瘍内科志望の後期研修医は下記のような研修を行っています。
*現在は最短1か月からのローテートも可能ですが、2-3か月以上のローテートをお勧めします。

	卒後3年目			卒後4年目			卒後5年目	
	名古屋医療センター			連携施設/西部医療センター			名古屋医療センター	
①	腫瘍内科 (3ヶ月)	呼吸器内科 (6ヶ月)	膠原病内科 (3ヶ月)	消化器内科 (6ヶ月)	血液・腫瘍内科 (6ヶ月)		腫瘍内科 (12ヶ月)	
	名古屋医療センター			名古屋医療センター			連携施設/西部医療センター	
②	呼吸器内科 (3ヶ月)	腫瘍内科 (6ヶ月)	膠原病内科 (3ヶ月)	神経内科 (3ヶ月)	内分泌内科 (3ヶ月)	腫瘍内科 (3ヶ月)	血液内科 (3ヶ月)	消化器内科 (9ヶ月)
	名古屋医療センター			名古屋医療センター			連携施設	
③	腫瘍内科 (3ヶ月)	膠原病内科 (3ヶ月)	血液内科 (3ヶ月)	神経内科 (3ヶ月)	血液内科 (3ヶ月)	腎臓内科 (3ヶ月)	腫瘍内科 (6ヶ月)	西部医療センター (6ヶ月) 国立がんセンター (6ヶ月)

卒業生は、当院の他にも愛知県がんセンター、国立がん研究センター中央病院、がん研有明病院、兵庫県立がんセンターなどで活躍しています。

当科は、総合病院としての強みを生かした内科研修に加えて、幅広いがん症例を経験でき、かつオンコロジストとしてのマインドを培える、全国的にも稀有な存在と自負しております。

随時、仲間を募集しています。まずは一度、見学にいらしてください。

がん拠点病院 + 3次救命救急センター -臓器横断的な腫瘍内科医を目指すあなたに最適な環境です-

臓器横断的な がん診療の実践

- ◆ローテーションせずに様々ながんを経験できます
- ◆希少がんまでカバーしている国内でも数少ない診療チームです
- ◆緩和ケア内科、放射線治療科とも連携したがん診療を行っています

内科専門医+がん薬物 療法専門医の取得

- ◆当院は内科専門医制度の基幹施設です
- ◆基本的な内科研修・病棟管理を学ぶことができます
- ◆がん薬物療法専門医を7名輩出しています

腫瘍内科医として 充実した研修

- ◆指導医のサポートのもと早期から外来薬物療法に携われます
- ◆愛知県がんセンター、国立がんセンターでの連携施設研修が可能です
- ◆病棟業務はチーム制、土日祝は当番制でOn/Offを確保できます

臨床研究・学術活動の サポート

- ◆治験・臨床グループ（WJOG、JCOGなど）の参加施設です
- ◆臨床研究の立案、実践をサポートします
- ◆成果は学会発表+論文にまとめるよう指導します

診療実績

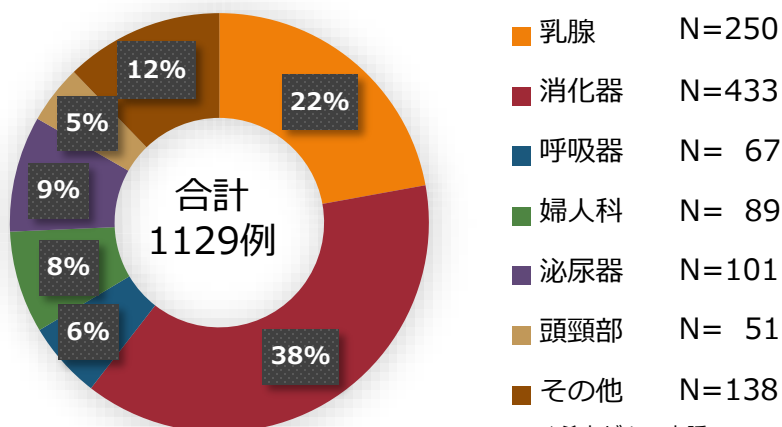
年間外来化学療法数

3,000件以上

年間新患者数

250例

臓器別診療実績割合（2018～2022年）



多彩ながん種を診療しています

*希少がん、肉腫、
原発不明がんなど

名古屋医療センターでともに真のオンコロジストを目指しましょう！



名古屋医療 センター

WHERE GREAT MINDS GROW

**We empower oncology
residents to achieve
academic excellence and
clinical expertise!**





ABOUT US

3大がん＋婦人科＋泌尿器＋頭頸部＋希少がんまでカバーしている腫瘍内科らしい？腫瘍内科です。

年間新患者数300例・外来化学療法件数2500/年（自科のみ）と症例は豊富で、典型例～複雑なケースまで多彩です。内訳は消化器（25%）・乳腺（35%）・肺（10%）・その他（33%）です。3大がんはもちろん、婦人科・泌尿器・頭頸部・胚細胞腫瘍・肉腫などもカバーしています。

スタッフ＋レジデント＝7名で活動中です。

RESIDENCY AND FELLOWSHIP

他科ローテーションをせずに、全固形がんを集中的に経験することが可能です。血液・造血幹細胞移植のローテーションも可能です。

レジデントは指導医のフォローのもと週1コマの再診外来を持つため入院・外来の区別なく長期にフォローが可能です。

緩和ケア科を併任し、Palliative/Oncologistを目指すことも可能です。



OUR GOAL IS TO KEEP ALL OF OUR CANCER PATIENTS WELL-BEING.



OUR SERVICES

がん薬物療法

薬物療法の実践は言うまでもなく腫瘍内科医のミッションです。再発/難治例の他、外科系診療科と連携した周術期補助療法・導入化学療法、食道・頭頸部・子宮頸癌の化学放射線療法など幅広くカバーしています。

総合病院×がん拠点病院

高齢者、合併症例（自己免疫疾患・透析患者・循環/呼吸不全など）、重複がんが多く、総合力が試されます。診療科の連携のもと、他院での治療困難例を受けいれています。

臨床研究・治験・リサーチ

臨床試験（JCOG・WJOG・JACCRO）、企業治験・医師主導治験に参加しています。当科医師が代表者・事務局を務める試験もあります。後ろ向き研究は随時可能で、学会発表・論文執筆をサポートしています。

初期・後期研修医教育

臨床研修病院かつ内科専門医基幹施設です。初期研修医は1-2ヶ月間ローテーションが可能です。内科専修医は卒後3-4年目に3-6ヶ月でのローテーションが可能です。卒後5年目からFixしがん薬物療法専門医取得を目指します。

OUR TRAINING SYSTEM

初期研修終了後の方...

内科専門医コースに入り，内科専門医を目指しながら腫瘍内科研修を開始するのがおすすめです。

内科専門医コース外での短期・長期研修も可能です。

内科ローテーション・救急診療・総合診療を通じて腫瘍内科医に必要な一般内科を習得してください。

様々な仕組み（チーム制，外来症例カンファレンス，外来研修，当番制）によって，入院～外来管理・外来化学療法・緩和ケアなどを総合的/集中的に研修できるようにしています。

まずは，見学にお越しください!!

311-sotsugok@mail.hosp.go.jp

（卒後教育研修センター）

内科ローテーション

内科専門医取得に必要なローテーションが可能です。循環器・呼吸器・消化器科の他，内分泌・腎臓・膠原病/リウマチ・総合内科・血液内科・感染症科など多彩なラインナップです。1診療科3-6か月単位でローテーションします。

血液内科は当院の看板科のひとつです。血液診療を通じて腫瘍内科医にとって重要なことが多く学べます（専門医試験の要件でもあります）。

呼吸器科は全身管理・肺合併症の管理の他，肺癌に関する治験・研究が盛んです！

腫瘍内科研修

内科専門医取得前の専修医としてローテーションが可能です。腫瘍内科医を目指す専修医が6か月のローテーションをする場合は外来研修も行っています。

地域医療研修・内科専門医に必要な研修が完了している卒後5年目からは腫瘍内科にFIXして専門的な研修を開始します。6・7年目はチームの主力として診療・教育・研究面でもブラッシュアップしていきます。

希望者は国立病院機構の派遣制度を利用しての米国での研修が可能です (West Los Angeles VA Medical Center, Department of Hematology/Oncology)。

チーム制の診療

腫瘍内科はその日のDutyごとに外来・化学療法室・病棟チームに分かれて診療しています。治療方針は朝・夕のShort meetingとRoundで共有します。勤務時間中は専用のメッセージャーを利用して情報の確認を行っています。

カンファレンスは入院・外来を分けて実施しています。外来症例のフォローも万全です。

週末・休日は完全当番制としON/OFF確保やセミナー・学会・班会議参加などを容易にしています（回診当番は月2回，最大3回程度）。

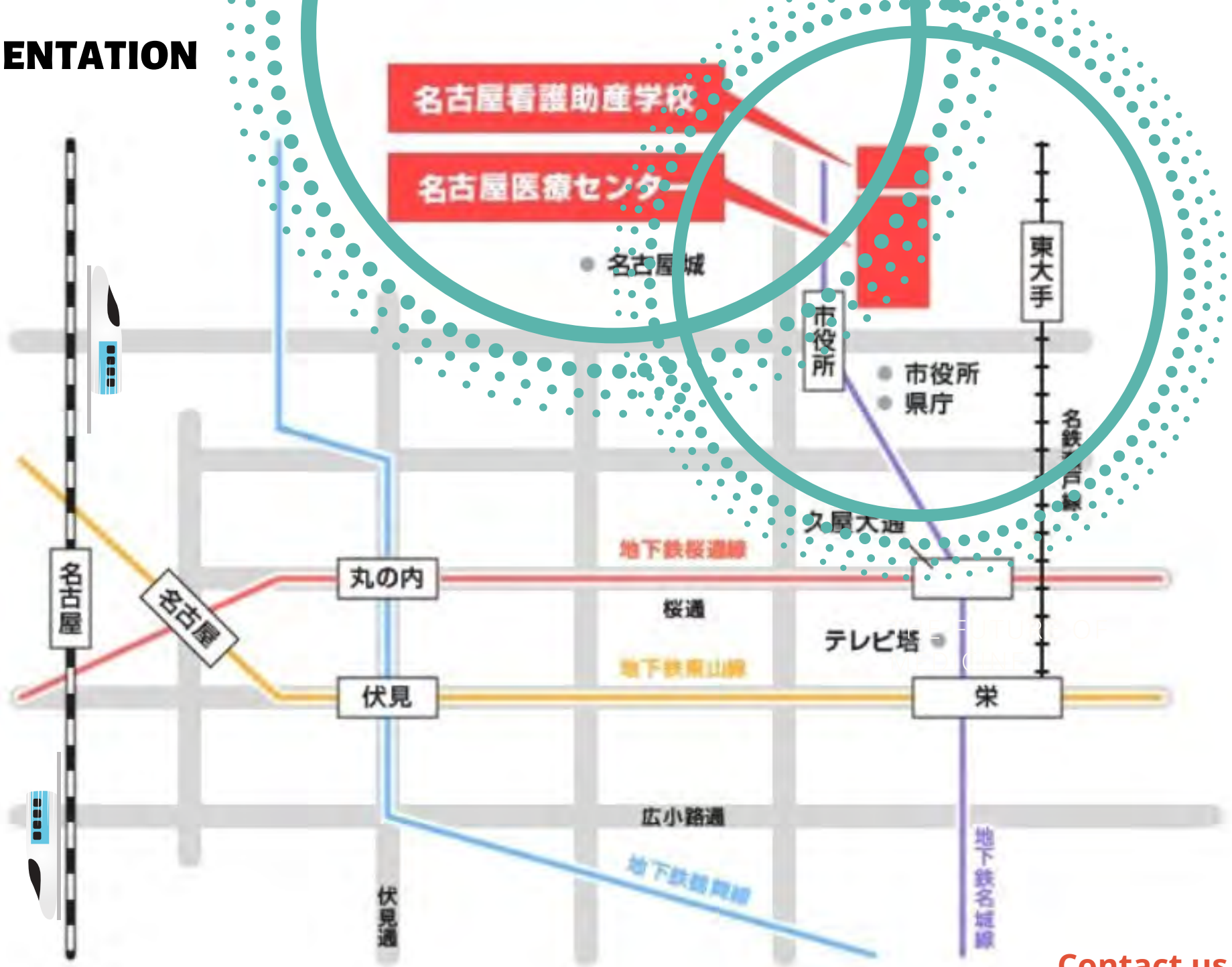
研修終了後

当院スタッフ医師として勤務を継続する
がんセンター等で臓器特異的な研修を継続する
大学院・基礎研究へ進む
他施設へ就職する
専門研修を継続し腫瘍内科×緩和ケアを目指す
etc

OB/OGの進路

愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部
愛知県がんセンター中央病院 乳腺科
国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
名古屋医療センター 腫瘍内科など

ORIENTATION



名古屋駅から地下鉄で15分，車で10分
名古屋－東京＝1時間40分．リニアで40分
名古屋－大阪＝50分
名古屋－中部国際空港＝50分

Contact us

愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1
311-sotsugok@mail.hosp.go.jp
<https://www.nnh.go.jp/>